

大規模都市整備事業の進捗にともなう生活環境への住民意識とソーシャルキャピタルの時点比較分析

Comparative Analysis of Residents' Consciousness Regarding to Living Environment and Social Capital with Progress of Urban Development Project

谷本 真佑*・南 正昭*

Shinsuke TANIMOTO and Masaaki MINAMI

要旨：本研究では、大規模都市整備事業が行われた盛岡市盛南地区において、事業中および事業完了後の2度実施した住民意識調査を基に、生活環境への満足度およびソーシャルキャピタルが地区全体の満足度に与える影響について、2時点の比較分析を行った。

事業完了後の調査では、生活環境への満足度ほどは関連性が強くないものの、ソーシャルキャピタルと地区全体の満足度との関連性に有意性が示された。市街地形成の途上過程では、生活環境への満足度のほかにソーシャルキャピタルも変化していることを示すとともに、今後の都市計画に向けてソーシャルキャピタルの時間変化に応じた施策の必要性が示唆された。

キーワード：ソーシャルキャピタル、生活環境、住民意識調査

Abstract： We analyzed transition of influence on satisfaction with living environment and social capital of occupants upon satisfaction with whole of Seinan area between urban development project were progressing. As a result, we found whole of Seinan area was influenced by social capital, the influence is weaker than satisfaction of living environment. But the influence by social capital were showed significance in the second survey. Additionally, satisfaction with the living environment and social capital change over time. These results have suggested to necessity consider transition in social capital as time goes by when formulating urban planning measures.

Key Words： social capital, living environment, questionnaire survey

はじめに

人口減少や予算縮小下での持続的なまちづくりを行う方向性の一つとして、住民のソーシャルキャピタルを活用したまちづくりが注目されている。集約型都市構造への移行に向けた立地適正化計画が各地で策定されており、それらの具体的な取り組みにより都市構造が変貌を遂げるものと思われるが、その最中にも生活環境への住民満足度をいかに維持・向上させるかは今後の都市整備における課題の一つと言える。

都市整備と生活環境に着目した研究はこれまでに様々な観点から行われている。中でも意識調査結果を基に検討を行っている研究として、今後の集約型都市構造への転換を図るため、開発後30年以上が経過した住宅団地の方向性について検討を行っている研究(松本ほか, 2016; Matsumoto *et al.*, 2016), 1970年代に形成された地方都市の住宅地における用途地域内の建築制限緩和など、自動車に依存しない生活に必要な方策を提言している研究(間野ほか, 2019; Mano *et al.*, 2019), 大型商業施設周

辺の生活環境に着目し、主に都市開発による子育て環境への影響の観点から、個人の満足感に止まらないQOLの捉え方の必要性を指摘している研究(西, 2006; Nishi, 2006)が挙げられる。また、東京都心および近郊の住環境評価を地区間比較した研究(末澤ほか, 2016; Suezawa *et al.*, 2016)では、住環境の評価に地区間で有意差のあることが示されている。

都市構造の変化と生活環境評価について時系列で分析した事例として、大学入学という環境移行に伴う生活環境への認知の変化について検討している研究(網藤ほか, 2001; Amifuji *et al.*, 2001)があるが、都市整備に伴う生活環境の変化について十分な検討がなされているとは言えない。

筆者らは、住民意識調査に基づく生活環境への満足度とソーシャルキャピタルの関係について研究してきた。少子高齢化および人口減少の進む岩手県久慈市内の2地区を対象に、ソーシャルキャピタルの違いにより生活環境への満足度が地区全体の満足度に与える影響が異なることを示した研究(谷本ほか, 2008; Tanimoto *et al.*, 2008)がある。都市整備事業が進み人口が増加傾向にある地区

* 岩手大学 理工学部 システム創成工学科 社会基盤・環境コース

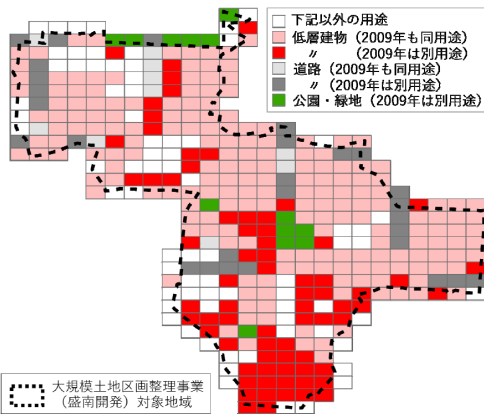


図1 研究対象地域の土地利用 (2016年時点)

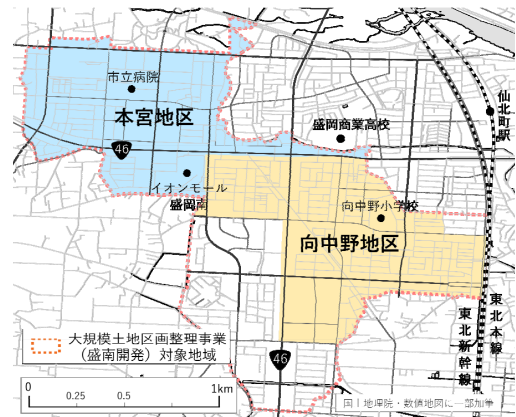


図2 研究対象地域 (2019年時点)

で同様の分析を行った事例として、盛岡市盛南地区の中で市街地形成からの時間差のある2地区で比較分析を行った研究(谷本ほか, 2019; Tanimoto et al., 2019)がある。これらの研究はある1時点における分析にとどまり、事業の進捗による生活環境評価およびソーシャルキャピタルの変化分析には至っていない。

そこで本研究では、盛南地区の今後の都市計画における事業施策や住民によるまちづくりへの活用につなげるため、盛南地区で2回実施した住民意識調査を基に、住民の生活環境への満足度およびソーシャルキャピタルの2時点間での変化や、それらと地区全体の満足度との関連性の変化を分析する。

1. 研究方法

1.1 研究対象地域

盛岡市は、岩手県の中部に位置する同県の県庁所在地であり、297,631人(2015年国勢調査)の人口を有する。盛南地区は、盛岡市の中心市街地から南西方向に位置している。同地区内では1991年から大規模土地区画整理事業(盛南開発)が実施され、2013年度に完工した。国勢調査による2015年時点の人口は約11,000人であり、2005年の同調査から一貫して増加傾向にある。

盛南地区では各種都市施設が順次整備され、同地区の道路網の骨格を担う国道46号盛岡西バイパスが1992年から2013年にかけて整備された。また、1999年に同地区に移転した盛岡市立病院や、2006年に開店した大型商業施設など、生活利便施設の立地も続いている。図1は、国土数値情報(国土交通省)による、2016年の盛南地区における土地利用状況を示した100mメッシュである。2009年から2016年にかけて低層建物や道路、公園・緑地に用途転換した

表1 調査実施概要

調査年	2007年度	2018年度
調査実施年月	2007年12月～2008年1月	2019年1月
配布票数	4,122票	4,000票
有効回答数	277票	585票

メッシュが比較的多く分布している様子が確認できる。

本研究では、大規模な都市整備事業が行われた盛南地区のうち、都市整備が比較的早い段階に始まった本宮地区と向中野地区を対象に研究を行った。図2に盛南地区における本宮地区と向中野地区の位置関係を示す。

1.2 調査概要

本研究では、盛南地区の住民を対象とした意識調査を実施し、当該地区の生活環境に対する満足度やソーシャルキャピタルについて尋ねた。調査は表1に示す2時点で実施し、1回目は大規模都市整備事業が行われている最中の2007年12月から翌2008年1月にかけて、2回目は事業完了から数年が経過した2019年1月に行った。1回目の調査当時は盛南地区内で宅地化が進むエリアが限定的であったため、調査票配布数の比較的多いエリアからランダムで抽出されたエリアに配布した。2回目は盛南地区内の広範にわたり宅地造成が進んでおり、地区内の人口分布を考慮して盛南地区内を全て網羅する形でランダムに調査票を配布した。本研究では、2時点間の比較が可能な向中野地区と本宮地区から得られた有効回答を対象に分析を行った。盛南地区を対象とした過去の研究(谷本ほか, 2019)で分析対象の北飯岡地区は、2007年度調査時点で宅地整備が進んでおらず2時点比較が困難であるため、本研究では分析対象から除外した。

調査項目は次のように設定した。1回目の調査では、盛岡市都市計画マスタープランの地域別構想策定に際し実施された住民アンケート調査や、同地区を対象とした既往研究等を参考に22の質問項目を設定するとともに、これらを踏まえた盛南地区全体の満足度を尋ねる項目を設定し、各項目への満足度を5段階(満足・やや満足・どちら

表2 ソーシャルキャピタル項目と選択肢

質問項目	選択肢1	選択肢2	選択肢3	選択肢4	選択肢5
地域行事への参加	よく参加する	ときどき参加する	-	たまたま参加する	ほとんど参加しない
地域の人への信頼	ほとんどの人を信頼できる	半分程度の人を信頼できる	-	少数の人を信頼できる	信頼できる人はいない
地域の人とのつきあい	ほとんどの人と面識・交流あり	半分程度の人と面識・交流あり	-	少数の人と面識・交流あり	面識・交流はほとんどない
地域の将来性	とても感じる	やや感じる	どちらでもない	感じない	感じない

表3 回答者属性(年齢層・性別)

(%)	~20代	30代	40代	50代	60代	70代~	計
2007年度 (n=277)	4.3	19.9	9.4	5.4	7.6	6.1	100.0
2018年度 (n=585)	2.1	10.1	12.8	9.7	9.6	8.2	100.0

表4 回答者属性(前居住地)

(%)	盛岡市内	岩手県内	岩手県外	未回答	計
2007年度 (n=277)	54.2	16.6	23.8	5.4	100.0
2018年度 (n=585)	60.9	12.8	23.9	2.4	100.0

表5 回答者属性(居住年数)

居住年数	5年以下	5年を超える	未回答	計
2007年度 (n=277)	75.5	10.8	13.0	0.7
2018年度 (n=585)	38.8	55.0	5.1	1.0

でもない・やや不満・不満)で尋ねた。さらにソーシャルキャピタル項目として、内閣府による調査報告(内閣府、2003)にて示されているイギリス国立統計局の調査マトリックスより、住民の回答しやすさを考慮して質問項目を設定し、回答者の状況に最も当てはまる選択肢を回答頂いた。2回目の調査では、1回目と比較するため、同様の項目にて調査を行った。ソーシャルキャピタル項目における回答の選択肢を表2に示す。

得られた有効回答の属性は表3~5の通りである。男女とも30~40代からの回答が多くを占めた。盛南地区における国勢調査の年齢別人口結果と比較すると、男性は現役世代からの回答が少なく、女性で現役世代からの回答が多い傾向がみられ、盛南地区住民の年齢構成を十分に反映されたとは言えない標本構成となった。また、回答者の多くは都市整備事業の開始後に居住を始め、盛岡市内からの転居者が半数以上となる傾向が確認された。

1. 3 分析手順

本研究ではまず、各生活環境評価項目への満足度と盛南地区全体の満足度について調査年度ごとに単純集計を行い、回答傾向を把握した。次に、2007年度と2018年度の回答傾向差を確認するため、2時点間での回答傾向の有意差について独立性の検定により確認するとともに、有意な増減がみられた選択肢を残差分析にて確認した。

次に、二項ロジット回帰による調整オッズを算出し、地区全体の満足度に与える生活環境の満足度やソーシャルキャピタルの影響を分析した。分析は、生活環境項目のみを独立変数として投入したケース、ソーシャルキャピタル項目のみを投入したケース、両者を同時に投入したケースの計3ケースを行った。得られた結果を基に変数増減法による変数選択を繰り返し、AIC(赤池情報量規準)が最小となった調整オッズ比を3つのケースでそれぞれ

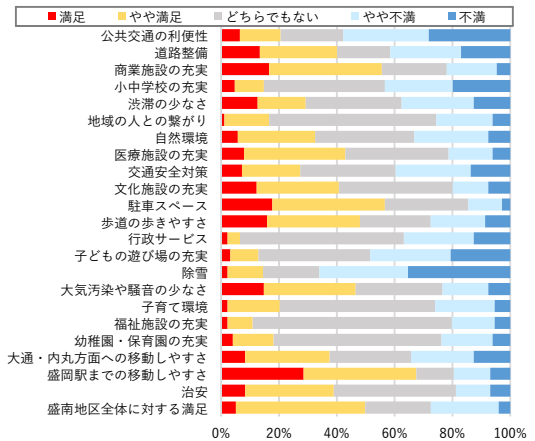


図3 生活環境項目の評価結果(2007年度)

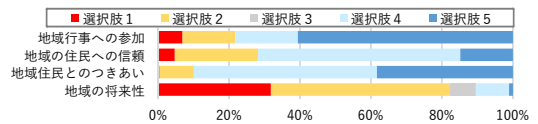


図4 ソーシャルキャピタル項目の回答結果(2007年度)

算出した。なお、調整オッズ比の算出に際し、得られた有効回答数を考慮し、回答結果の集約を行った。生活環境および盛南地区全体の満足度への回答は、「満足(とても感じる)」「やや満足(やや感じる)」の2項目を満足(肯定)側回答、その他3項目を非満足(否定)側回答として集約した。ソーシャルキャピタル項目も同様に、各質問項目について表2中の選択肢1および2を高SC側回答とし、選択肢3、4、5と分けて2つに集約した。

集約結果を基に、生活環境への満足側回答やソーシャルキャピタルの高い回答(高SC側回答)が、地区全体の満足側回答にどの程度寄与するかを定量的に分析した。

2. 調査結果

2. 1 2007年度調査の回答結果

図3は、2007年度調査から得られた盛南地区の生活環境項目および地区全体に対する評価結果を示している。「盛岡駅までの行きやすさ」「駐車スペース」「商業施設」で満足側回答が半数以上を占めた。盛南地区と盛岡駅西口を結ぶ橋の開通(2006年)や、盛南地区への大型商業施設の開業(同年)など、都市整備により利便性が高まったと考えられる項目で満足側回答が多く寄せられた。また、「歩道の歩きやすさ」や「盛南地区全体の満足度」も満足側回答が半数近くを占めた。一方、「除雪」や「公共交通」では「やや不満」「不満」との回答が半数以上を占め、「子どもの遊び場」でも半数近くが「やや不満」「不満」との回答で占められた。図1から、2009年時点では

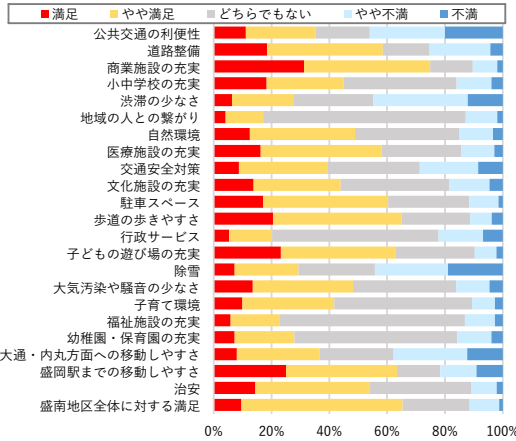


図5 生活環境項目の評価結果 (2018年度)

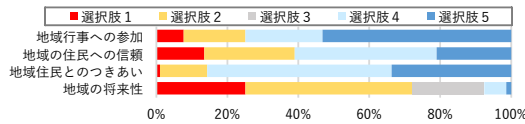


図6 ソーシャルキャピタル項目の回答結果 (2018年度)

地区内に公園・緑地の用地が存在せず、2009年から2016年にかけて道路用地に転換しているメッシュが一定数分布していることが確認できる。このことから、2007年の調査時点においてもこれらの項目への整備水準は、住民の満足が得られる状況にはなかったと思われる。

図4は、ソーシャルキャピタル項目への回答結果を示している。「地域の将来性」に対し、全回答者の約8割が「とても感じる」「やや感じる」と、将来性に対し比較的前向きな回答を示している。一方、それ以外の3項目に対しては比較的消極的な回答が7割前後を占める結果となった。以上の結果から、2007年当時は盛南地区への将来性を抱いていたものの、住民同士の交流は比較的希望であった状況が推察される。

2.2 2018年度調査の回答結果

図5は、2018年度調査から得られた盛南地区の生活環境項目および地区全体に対する評価結果である。2007年度調査で満足側回答が半数以上を占めた「盛岡駅までの行きやすさ」「駐車スペース」「商業施設」は、2018年度調査でも引き続き満足側回答が半数以上を占め、特に「商業施設」では7割以上の回答者が満足側回答を示した。「子どもの遊び場」は、2007年度調査では「やや不満」「不満」への回答が半数近くを占めたものの、2018年度調査では満足側回答が6割以上を占め、満足度の大幅な向上がみられた。図1から、都市整備事業の進捗により公園や道路、低層建物がさらに整備される様子が確認でき、これらが満足度向上に寄与したと思われる。また、「盛南地区全体の満足度」でも満足側回答が65.3%を占め、

表6 回答結果の2時点比較

生活環境項目		2007年度		調査年		2018年度				
満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満	項目	満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満
-	-	+	++	++	子どもの遊び場の充実	+	++	-	-	-
-	-	+	++	++	小中学校の充実	+	+	-	-	-
-	-	+	++	++	子育て環境	+	+	-	-	-
-	-	-	-	++	道路整備					
-	-	-	-	++	除雪					
-	-	-	-	+	自然環境					
-	-	-	-	+	商業施設の充実	+				
-	-	-	-	+	歩道の歩きやすさ					
-	-	-	-	+	盛南地区全体の満足度					
-	-	-	-	+	行政サービス		+			
-	-	-	-	+	地域の人の繋がり					
-	-	-	-	+	治安					
-	-	-	-	-	医療施設の充実					
-	-	-	-	-	福祉施設の充実					
-	-	-	-	-	公共交通の利便性					
+	-	-	-	-	渋滞の少なさ					
-	-	-	-	-	交通安全対策					
-	-	-	-	-	幼稚園・保育園の充実					

ソーシャルキャピタル項目		2007年度		調査年		2018年度				
選択肢1	選択肢2	選択肢3	選択肢4	選択肢5	項目	選択肢1	選択肢2	選択肢3	選択肢4	選択肢5
-	-	-	+	-	地域住民への信頼	+				
-	-	-	-	-	地域の将来性				+	
-	-	-	-	-	5%有意 (有意に少ない)	+	5%有意 (有意に多い)			
-	-	-	-	-	1%有意 (有意に少ない)	++	1%有意 (有意に多い)			

こちらも2007年度調査から増加傾向がみられた。一方「公共交通」に対する「やや不満」「不満」への回答割合は、2007年度調査から減少傾向にあるものの、2018年度調査においても半数近くの回答者が「やや不満」「不満」と回答しており、バスのサービス水準が住民の移動ニーズを十分に網羅するには至っていない状況が反映されたものと理解できる。

図6は、2018年度調査から得られたソーシャルキャピタル項目への回答結果を示している。「地域の将来性」で比較的前向きな回答が7割程度を占めた一方、それ以外の項目では比較的消極的な回答が半数以上を占めるに至り、2007年度調査と同様の回答傾向が示された。

2.3 回答傾向の2時点比較

生活環境項目および盛南地区全体への評価結果について、独立性の検定により2時点間で回答傾向に差が認められた項目を対象に残差分析を行ったところ、表6に示す結果が得られた。表中の項目は、生活環境項目とソーシャルキャピタル項目ごとに算出された連関係数の高い順に表記している。

生活環境項目をみると、連関係数の高い上位3項目は「子どもの遊び場」「小中学校の充実」「子育て環境」で占められ、子育てに関する項目で満足度の有意な向上が示された。また、「道路整備」や「除雪」「歩道の歩きやすさ」など、道路整備の進捗が影響していると考えられる項目が多くみられた。また、「盛南地区全体の満足度」では、都市整備の進捗に伴い「やや不満」への回答が有意に減少する傾向がみられた。一方「渋滞の少なさ」は、

表7 盛南地区全体の満足度に対する影響

(分析対象)	2007年度調査(n=277)						2018年度調査(n=585)					
	生活環境のみ		S Cのみ		生活環境+S C		生活環境のみ		S Cのみ		生活環境+S C	
変数選択の有無	選択前	選択後	選択前	選択後	選択前	選択後	選択前	選択後	選択前	選択後	選択前	選択後
A I C	247.9	234.1	368.2	362.9	248.4	232.2	420.9	408.2	715.1	711.8	423.1	406.2
判別率 (%)	81.6	80.5	61.0	61.0	82.3	81.6	86.5	85.6	67.9	67.9	86.2	86.0
n	277	277	277	277	277	277	585	585	585	585	585	585
公共交通の利便性	3.26 *	2.90 *	-	-	2.90	2.68 *	3.32 **	3.35 **	-	-	3.24 **	3.29 **
道路整備	2.69 *	2.58 *	-	-	2.73 *	2.59 *	2.43 **	2.41 **	-	-	2.37 **	2.48 **
商業施設の充実	1.81	-	-	-	1.84	-	4.27 **	4.33 **	-	-	4.25 **	4.18 **
小中学校の充実	0.85	-	-	-	0.82	-	0.78	-	-	-	0.79	-
渋滞の少なさ	0.99	-	-	-	1.12	-	2.40 *	2.46 *	-	-	2.67 *	2.69 *
地域の人との繋がり	0.72	-	-	-	0.71	-	0.44	0.48	-	-	0.36 *	0.35 *
自然環境	2.54 *	2.31 *	-	-	2.27	1.99	1.17	-	-	-	1.13	-
医療施設の充実	0.68	-	-	-	0.50	-	1.24	-	-	-	1.21	-
交通安全対策	0.65	-	-	-	0.83	-	3.57 **	3.84 **	-	-	3.52 **	3.88 **
文化施設の充実	4.16 **	3.44 **	-	-	4.63 **	3.37 **	1.09	-	-	-	1.12	-
駐車スペース	2.68 *	2.74 **	-	-	3.10 **	2.78 **	1.86 *	1.91 *	-	-	1.89 *	1.92 *
歩道の歩きやすさ	2.51 *	2.03	-	-	2.44 *	2.15 *	1.60	1.64	-	-	1.53	1.68
行政サービス	0.37	-	-	-	0.31	-	2.68	2.71	-	-	2.72	2.92
子どもの遊び場の充実	1.04	-	-	-	0.99	-	0.96	-	-	-	0.99	-
除雪	4.37 *	6.02 **	-	-	4.97 *	5.16 *	1.44	-	-	-	1.48	-
大気汚染や騒音の少なさ	2.67 *	2.37 *	-	-	2.70 *	2.21 *	1.87 *	1.96 *	-	-	1.86 *	1.97 *
子育て環境	2.73	3.09 *	-	-	3.09	3.06 *	3.06 **	2.84 **	-	-	3.00 **	2.75 **
福祉施設の充実	1.20	-	-	-	0.95	-	1.06	-	-	-	0.96	-
幼稚園・保育園の充実	2.51	-	-	-	2.38	-	0.91	-	-	-	0.97	-
大通・内丸方面への移動しやすさ	2.14	2.19 *	-	-	1.98	1.97	1.66	1.66	-	-	1.60	-
盛岡駅までの移動しやすさ	3.48 **	3.58 **	-	-	3.59 **	3.69 **	1.86 *	1.91 *	-	-	1.92 *	2.31 **
治安	1.58	-	-	-	1.62	-	2.73 **	2.84 **	-	-	2.72 **	2.97 **
地域行事への参加	-	-	0.84	-	0.63	-	-	-	0.84	-	0.64	-
地域の住民への信頼	-	-	0.91	-	0.50	-	-	-	2.11 **	1.98 **	1.83	1.79 *
地域住民とのつきあい	-	-	1.49	-	3.60	-	-	-	0.95	-	1.14	-
地域の将来性	-	-	5.79 **	5.79 **	2.88	2.77	-	-	2.78 **	2.78 **	1.13	-
(定数項)	0.01 **	0.02 **	0.23 **	0.23 **	0.00 **	0.01 **	0.02 **	0.02 **	0.75	0.72	0.02 **	0.02 **

99%信頼区間で有意性が確認された値

95%信頼区間で有意性が確認された値

2007年度調査でのみ「満足」との回答が有意に多い結果が示された。盛南地区内の道路網の骨格をなす国道46号の地区内における日交通量が24,600台(平成22年度道路交通センサス)から27,800台(平成27年度全国道路・街路交通情勢調査)に増加するなど、都市整備事業の進展に伴う地区内の交通量増加が影響しているものと思われる。以上の結果から、交通量の増加によると思われる満足側回答の減少項目がみられたものの、多くの生活環境項目や盛南地区全体の満足度で、都市整備の進捗に伴い満足度が改善される傾向にあり、特に子育てに関する項目でその傾向が顕著であると判断できる。

ソーシャルキャピタル項目をみると、「地域住民への信頼」では、「ほとんどの住民を信頼できる」への回答が2007年度調査で有意に少なく、2018年度調査では有意に多い結果が示された。また、「少数の住民を信頼できる」への回答が2007年度調査で有意に多いことも見て取られる。また「地域の将来性」では、「どちらでもない」への回答が2007年度で有意に少なく、2018年度で有意に多い結果となった。この結果は、住民間の信頼感の高いまちが形成されている姿が評価された側面といえる。

3. 盛南地区全体の満足度に与える影響

3.1 2007年度調査

生活環境への満足側回答が盛南地区全体の満足側回答

にどの程度寄与するかを定量的に把握するため、二項ロジット回帰分析を行ったところ、表7に示す調整オッズ比が得られた。このほかに年齢層・居住年数・居住者の前住所を独立変数として加えた分析も行ったところ、得られた調整オッズ比は1~88%の信頼区間で有意性が示されるにとどまったため、本稿ではこの結果の記載を省略する。

2007年度調査より得られた結果をみると、生活環境項目のみを独立変数としたモデルでは、「公共交通」「道路整備」「自然環境」「文化施設」「駐車スペース」「除雪」「大気汚染・騒音」「盛岡駅までの行きやすさ」において、変数選択前後のいずれにおいても有意性が示された。特に「文化施設」「盛岡駅までの行きやすさ」では99%信頼区間で有意性が示され、盛南地区全体の満足度との関連性に高い有意性が確認された。

ソーシャルキャピタル項目のみを独立変数としたモデルでは、「地域の将来性」でのみ有意性が示された。

生活環境項目とソーシャルキャピタル項目を独立変数として同時に投入したモデルでは、生活環境項目のみを投入した際に有意差が示された項目の多くで再び有意差が確認できた一方、ソーシャルキャピタル項目では有意差が示されない結果となった。ソーシャルキャピタル項目の投入により有意性の示された生活環境項目に若干の相違がみられたことから、盛南地区全体の満足度に対してソーシャルキャピタル項目も何らかの影響を及ぼして

いると考えられるが、その度合いは生活環境項目ほど大きくないと判断できる。また、この投入条件で変数選択を行ったモデルの AIC が、2007 年度調査の分析で得られた AIC の最小値となり、適合度の最も高いモデルであることが確認された。

3. 2 2018 年度調査

生活環境項目のみを独立変数として投入したモデルでは、「公共交通」「道路整備」「商業施設」などの 10 項目において、変数選択前後のいずれにおいても有意性が示された。中でも「商業施設」「交通安全対策」「子育て環境」「治安」で調整オッズ比が比較的大きく、地区全体の満足度との関連性の高さが確認された。

ソーシャルキャピタル項目のみを独立変数として投入したモデルでは、変数選択前後のいずれにおいても「地域住民への信頼」「地域の将来性」で有意性が示され、2007 年度調査から「地域住民への信頼」が追加される形となった。変数選択後の調整オッズ比は、「地域の将来性」で若干高い傾向にある。

生活環境項目とソーシャルキャピタル項目を独立変数として同時に投入したモデルでは、2007 年度調査と同様、生活環境項目のみを投入した際に有意差が示された項目の多くで再び有意差が確認できた。ソーシャルキャピタル項目は、変数選択後に「地域の住民への信頼」で有意差が示された。2007 年度調査と異なり、ソーシャルキャピタル項目にも盛南地区全体の満足度に対する有意な関連性が示されたものの、調整オッズ比の値やその信頼区間から、その度合いは生活環境項目ほど大きくないと判断できる。また、2007 年度調査と同様、この投入条件で変数選択を行ったモデルの AIC が、2018 年度調査の分析で得られた AIC の最小値となり、適合度の最も高いモデルであることが示された。

盛南地区内で都市整備の開始時期が異なる 2 地区を対象に、1 時点での比較分析を行った既往研究（谷本ほか、2019）では、いずれの地区でもソーシャルキャピタル項目が地区全体の満足度と与える有意な影響はみられなかった。一方本研究では、2 時点で行った住民意識調査のうち、都市整備完工後の調査にて、ソーシャルキャピタル項目による有意な影響が確認された。以上の結果は、新たな都市整備地区において、ソーシャルキャピタル項目が地区全体の満足度と与える影響は、都市整備からの時間経過により変化することを示す結果と解釈できる。

おわりに

本研究では、大規模都市整備事業が行われた盛岡市盛南地区を対象に、事業中と事業後の 2 度実施した住民意

識調査に基づき、事業の進捗とともに変化する生活環境への満足度や住民のソーシャルキャピタルが、盛南地区全体の満足度と与える影響について 2 時点での比較・分析を行った。

分析の結果、都市整備事業の進捗とともに、生活環境への満足度は改善傾向にあることや、地域住民への信頼感が高まりつつある傾向がみられ、時間の経過による生活環境への満足度やソーシャルキャピタルの変化が確認できた。また、ソーシャルキャピタルが地区全体の満足度と与える影響は、依然として生活環境への満足度と与える影響ほど大きくないが、都市整備事業完了後の調査で有意性が確認された。以上から、都市計画上の施策を立案する際、時間の経過に伴うソーシャルキャピタルの変化を考慮する必要性が示唆された。

今後の課題として、市街地形成からある程度時間が経過した地区において地区の満足度向上を目的としたソーシャルキャピタルの適用可能性の検討、事業完了からさらに時間が経過した盛南地区においてソーシャルキャピタルが地区の満足度と与える影響の経時変化の分析、意識調査における回答数の拡充が挙げられる。

引用文献

- 網藤芳男・村川三郎・西名大作・関根範雄（2001）大学生の環境移行に伴う生活環境評価の時間的変化と共分散構造。日本建築学会計画系論文集、Vol.66、No.540、81～88。
- 間野喬博・丸岡 陽・松川寿也・中出文平・樋口 秀（2019）1970 年に形成された住宅地の生活環境とその変化に関する研究。都市計画論文集、Vol.54、No.3、413～420。
- 松本卓也・松川寿也・中出文平・樋口 秀（2016）地方都市における郊外住宅団地の実態と今後の課題に関する研究。都市計画論文集、Vol.51、No.3、952～959。
- 内閣府国民生活局（2003）ソーシャル・キャピタル：豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて。内閣府、東京、177pp。
- 西 英子（2006）都市開発とクオリティ・オブ・ライフに関する考察。都市計画論文集、Vol.41、No.3 1031～1036
- 末澤貴大・荒井智暁・岸本達也・山田崇史・伊藤駿太（2016）生活環境と居住者の生活および生活評価の関係の分析。都市計画論文集、Vol.51、No.3、966～971。
- 谷本真佑・南 正昭（2008）地方都市における生活環境とソーシャルキャピタルに関する意識調査分析。環境情報科学論文集、No.22、309～314。
- 谷本真佑・南 正昭（2019）大規模都市整備事業の対象地域における生活環境への住民意識とソーシャルキャピタルの地区間比較。環境情報科学論文集、No.33、97～102。